

試験科目	人間社会研究科 臨床心理学専攻 (一般選抜)
専門論述	試験時間 60分

解答はすべて解答用紙（別紙）に記入すること。

問1 【研究概要】を読み、小問(a)と小問(b)に解答しなさい。

【研究概要】

Takagishi Y., Ito M., Kanie A., et al. (2023) は、心的外傷後ストレス障害 (PTSD) と診断された外来患者 25 名を対象とし、認知処理療法 (CPT; Cognitive Processing Therapy) の予備的有効性 (preliminary efficacy) を検討した。患者 25 名は非盲検の単群での前後比較試験 (single-arm trial) に参加し、平均して 13 回 (標準偏差=1.38) の CPT セッションを受けた。この比較試験では PTSD 症状が主要評価項目 (primary outcome) とされ、PTSD 臨床診断面接尺度 (CAPS-IV) を用いて治療前 (ベースライン)、治療後、6 ヶ月後および 12 ヶ月後の追跡調査で測定された。

CAPS-IV 得点の変化を統計的に解析した結果、治療前と治療終了時、6 ヶ月後、および 12 ヶ月後との間で、PTSD 症状の改善を示す有意な平均値差が認められ (有意水準=.05)、ヘッジス (Hedges, L. V.) の g は、治療終了時が-2.28、6 ヶ月後が-2.95、12 ヶ月後が-2.15 であった。

[出典] Takagishi Y., Ito M., Kanie A., et al. (2023). Feasibility, acceptability, and preliminary efficacy of cognitive processing therapy in Japanese patients with posttraumatic stress disorder. *Journal of Traumatic Stress*, 36(1), 205-217. doi:10.1002/jts.22901

[補足 1] CPT は、通常 12 回の個人セッション (週に 1 回、50 分) を行う。

[補足 2] CAPS-IV は、米国の国立 PTSD センター (National Center for PTSD) が開発した PTSD 診断用の構造化面接尺度を日本語化したもの (Japanese-language version of the Clinician-Administered PTSD Scale for DSM-IV) である (Asukai, N., et al., 2003)。

[補足 3] ヘッジスの g は平均値差の大きさを表す効果量の一つである。

小問(a) Takagishi Y., Ito M., Kanie A., et al. (2023) の研究結果は CPT の予備的有効性を示唆するが、より厳格な方法で有効性を検証する必要がある。その理由について説明しなさい。

小問(b) 有効性の検証に必要な研究計画について、【使用する用語】内のすべての語を含めて説明しなさい。なお、語を使用する順番と回数は任意であり、説明に図表を用いてもよい。

【使用する用語】

患者の割り付け、介入、主要評価項目、標本の大きさ、検定力、有意性検定、効果量

問2 次の専門用語のうちから3つを選び、それぞれに選択した番号と用語を〔 〕内に記入し、その内容を200字程度で説明しなさい。

- (1) パーテン (Parten, M.B.) の遊びの分類
- (2) 感情の心理的構成主義理論
- (3) 発達障害者支援法
- (4) TEA (複線経路等至性アプローチ)
- (5) 曝露反応妨害法
- (6) 社会的学習理論
- (7) 操作的診断